

2026年3月7日

『みんなのスポーツ』 3月号(No.521)から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の3月号は「**学校部活動の地域展開が生み出す新しいステージ**」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を3点記載します。



- (1) **静岡県掛川市教育委員会公認地域クラブ** 表紙の写真を見てすぐに思ったのが、中学校の部活動。近くの中学校はダンス部の成績は良く、県大会、関東大会などによく出ていたが、昨年4月から活動は停止。市内にチームも少なく？面倒を見る顧問の方も異動？残念！地域の活動でも時に特別出演してくれたのに。

また、掛川市とは、15年以上前に横浜市で野外活動をしていた時に交流研修があり参加した際に色々な仕組み他を学んだことを鮮明に覚えている。横浜市は安価で質の高い講座や研修を行っており、数多く受講させて頂いた。感謝！今も登録は残っており、時々参加。

- (2) **アナザーストーリー 愛媛県宇和島市会長で同県副会長の河野新也さん**「みかん畑から地域スポーツの現場へ」お住いの宇和島市吉田町は古くからのみかん農家が多く、畑仕事を通じた人のつながりを大切にされている。西日本豪雨や令和以降急激に人口の減少、**農業とスポーツ推進委員の活動の共通点は、「どっちも地道なこと、すぐには結果が出ない、続けることが大切」**との事で私も同感です。活動では時に声をあげひっかきまわす人、言うがやらない人も散見される。意見を言ってくれるだけでもありがたいと思うが、やはり疲れる。それは誰がやるの？みんなで討議して一步一步分担し取り組んでいきたい(学区ではベテランと経験の浅い人が組みメンター制度を活用)と感じている昨今です。

*武山富士見学区で平成の頃からやっている人1に対して、令和になってからスポーツ推進委員になった人は2の割合である。

- (3) **公衆衛生学「応急手当の大切さを改めて考える」** 今まで、横須賀市消防局または、日本赤十字社のどちらかで年1回以上応急手当の講習会を受講していたが、7年度は地域・学区で1回、ボランティアで2回の3回学んだ。

救急車を呼んでから現場に到着するまで、平均で10分程度かかると言われており、院外心停止から3~5分以内にAED(自動体外式除細動器)が使用できれば、70%近く救命が可能です。

2月に受講した講習会は、**ピースフル**の方が講師で、10分間人が交代しながらAEDと心肺蘇生法などの応急処置を併用する体験で学びました。10分間は大変だったが、貴重な経験であった。

暖かくなり、活発に活動をする機会が増えるため、思わぬケガがどうしても増えてきます、最新の応急手当の知識を再確認し、安全で充実したスポーツ活動に取り組んでいきたい。

今月号で3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことのできることから始めて(行動)みませんか？

* **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。**問題意識や感度を高めていく**と紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど思います。特にここ1、2年で**冊子内容が読者参加型の編集**になりました。
活動はみんなでは是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上